

## 令和3年度実施 教員活動状況評価結果について

学 長

国立大学法人福井大学教員活動状況評価規程に基づき、令和3年度に実施した教員活動状況評価結果を、以下のとおり公表します。

なお、SS 評価該当教員については氏名及び評価理由を公表し、S 評価該当教員については氏名を公表します。

### 1. 評価対象

教授・准教授・講師・助教，助手の全教員

### 2. 評価方法

①教育活動，②研究活動，③社会貢献・国際交流活動，④管理運営活動の4領域（ただし，教育・人文社会系部門に所属し附属学園に係る業務に従事する教員は，特定活動を加えた5領域。医学系部門に所属し診療活動に従事する教員は，診療活動を加えた5領域。センター等では「センターの設置目的に合致した活動」を加えた5領域。）について，評価を実施しました。

各領域の活動状況の評価及び総合評価を，次に掲げる評点及び標語に基づき行います。

SS 長期目標や中期目標の達成に大きく貢献するとともに、学術・社会的に優れた顕著な実績をあげるなど、大学や社会への貢献が特に顕著な成果をあげている

S 長期目標や中期目標の達成に大きく貢献する等、優れた成果をあげている

A 良好な活動・取組みを実施しており、十分な成果・実績をあげている

B 適切な活動・取組みを実施しており、相応な成果・実績をあげている

C 適切な活動・取組みを実施し成果・実績をあげているが、改善を要する

D 適切な活動・取組みを実施していない

なお、SS 及び S に該当する者の合計数は、評価対象者の5%を超えないものとして評価を行っています。

### 3. 評価結果

教員数	評価					
	SS	S	A	B	C	D
507人	2.1%	2.6%	43.6%	50.9%	0.8%	0.0%

#### 4. SS 評価該当教員

教員名：浅原 雅浩	所属：教育・人文社会系 部門教員養成領域	職：教授
<p>当人は教育、研究、社会貢献、管理運営の4領域すべてにおいて優れた業績を残している。</p> <p>当人は化学を専門とし、科研費基盤研究（B）や研究成果公開促進費（ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI）を継続して獲得するとともに、学内外の競争的資金を4件獲得し、CST 養成・支援事業、地域人材育成事業等で中心的な役割を担うなど研究並びに社会貢献の面で大きく貢献している。</p> <p>さらに、教育・管理運営面では教育課程委員会委員長や教職実践演習担当者会議委員長、教職大学院一元化 TF 免許取得プログラム WG 座長、嶺南地域枠教育プログラム TF 主査を務めた他、国立大学法人評価や第4期中期目標・中期計画の策定にも携わり、学部及び研究科の運営における貢献度は群を抜いて大きく、SS と判定した。</p>		

教員名：ヘネシー クリ ストファー	所属：教育・人文社会系 部門総合グローバル領域	職：講師
<p>国際地域学部の英語教育に関するヘネシー氏のリーダーシップと貢献には目覚ましいものがあるが、加えて、全学部の新生向け英語授業のレベル分けプレースメントテストを開発し、その実施体制を確立したことで、文部科学省が推進する CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づいたレベル別の英語授業を本学全体で実施することを可能にした点もまた、同氏の功績として特筆されて然るべきである。</p> <p>研究面において、ヘネシー氏が2016年以降に発表した福井の方言意識に関する4本の論文は日本語学の分野で数多く引用されているが、とりわけ注目されるのは、同氏の研究のフィールドが福井を中心とする北陸地方に設定されている点である。国際地域学部は「地域に世界のまなざしを、そして世界に地域のまなざしを織り込むこと」を学部の理念として謳っているが、同氏の研究は正にそれを実践するものと言える。</p> <p>上述した教育や研究における実績・業績に加えて、社会貢献活動においては、「FAA 学ぶなら福井！ 応援事業」の一環として福井県に在住する外国人向けの福井の方言に関するオンライン教材を開発した点が、国際交流活動においては、カンボジアの国立マネジメント大学との大学間学術交流協定締結を実現させ、その後も定期的にカンボジア国立教育研究所において研究方法や PBL に関するワークショップを実施している点が、それぞれ同氏の功績として注目される。</p> <p>以上に述べたように、ヘネシー氏が過去4年間に本学の質保証に資する教育、研究、社会貢献・国際交流の諸活動に関して偏りなく優れた実績・業績を残している点、そして、それらが国際地域学部の理念を申し分なく体現している点をも考量し、SS と判定した。</p>		

教員名：安倍 博	所属：医学系部門医学領域	職：教授
<p>教育活動における実績が極めて顕著で、令和元年度には学長賞（教育）を受賞した。教育改革担当副医学部長および教育支援センター長として、医学部の教育改革を主導し、アウトカム基盤型教育の確実な実行を牽引した。特に教学 IR に基づく教育内部質保証体制を医学部で先行して構築し、教学 PDCA を実質的に稼働させ、それを全学に波及させることで第 3 期中期目標・計画の達成に大いに貢献した。さらに F. CESS や F. MOCE など独自の教育 ICT システムの開発と運用を主導し、医学部教育の DX 化を牽引した。その他にも医学部及び全学における教育面での実績は膨大かつ多岐に渡り、本学の教育面における貢献度は極めて高い。社会・国際貢献、管理運営、研究活動においては、ICT 開発での産学連携主導及び福井県労働者メンタルヘルス支援、ラトガース大学など学生国際交流主導、学長補佐・教育改革推進機構長補佐として全学教育改革推進と教育課題解決、唯一の時間生物学研究者として睡眠研究による学生就学支援など、多方面において貢献し高い実績を残した。</p> <p>以上、多方面にわたる多大な業績により SS と判定した。</p>		

教員名：内木 宏延	所属：医学系部門医学領域	職：教授
<p>当人の専門分野は病理学であるが、研究活動としては、ヒトアミロイドーシス発症機構をライフワークとし、2018 年 6 月、第 107 回日本病理学会（札幌）で宿題報告「ヒトアミロイドーシス発症の分子機構」を担当し、日本病理学会賞を受賞した。また、2017 年 4 月より厚生労働省アミロイドーシスに関する調査研究班の班長を務め、全身性アミロイドーシス病型診断コンサルテーション体制の確立、全身性アミロイドーシス診断基準改定など、難病医療に多大の貢献を果たした。一方、管理活動として、2016 年 4 月より医学部長・医学系研究科長を務め、コロナ対策・入学試験を始めとする教育業務を統括するなど、医学部の安定運営、発展に貢献した。さらに国際活動として、2018 年 7 月、単身ニューブランズウィック市を訪問し、本学医学部とラトガース大学医学部との学術交流協定を締結した。</p> <p>以上、多方面にわたる多大な業績により SS と判定した。</p>		

教員名：藤枝 重治	所属：医学系部門医学領域	職：教授
<p>研究活動においては、アレルギー性鼻炎、好酸球性副鼻腔炎に関する疫学、遺伝子解析、網羅的遺伝子発現解析、網羅的蛋白解析、臨床研究を行い、それらの病態解明、診断基準作成、新規治療法開発において、独創の高い研究成果を挙げ、インパクトファクターの高い国際一流誌に多くの業績を発表し、多数引用された。2019 年に Lancet に掲載された論文はすでに 250 回以上引用されている。基盤 B、萌芽、AMED、厚生科研に継続的に採択され、共同研究を含め総額 1.1 億円の競争的資金を獲得、特許取得によっても 600 万円の収入を獲得し、医学部の重点研究である「免疫・アレルギー研究」の推進に大きく貢献するとともに、新たな治療法が保険適用に指定され、我が国の医療制度に対しても多大な貢献を行った。以上から 2020 年度学長賞を受賞した。</p> <p>管理活動及び教育活動では、2017 年経営担当副病院長としてそれまでの最高診療報酬請求額を達成し、2018 年医療安全担当副病院長として附属病院の医療安全に貢献し、2019-20 年は医学部副部門長として学生教育に参画し、前年度最下位であった本学の医師国家試験成績を卒業試験改革で V 字回復させ、本学初の現役生全員合格を達成した。</p> <p>診療活動では、福井県の頭頸部癌治療、耳鼻咽喉科疾患治療の要として本学を機能させた。さらにアレルギー疾患対策都道府県拠点病院モデル事業への代表機関としての採択、課題解決型高度医療人材育成プログラムに北陸高度専門医療人育成プランが</p>		

全国で唯一採択された。

社会貢献・国際活動では、毎年8月鼻の日保健大会、10月鼻副鼻腔疾患に関する市民公開講座を開催し、日本耳鼻咽喉科学会理事、日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会理事長、日本アレルギー学会理事として学会活動を通じた社会貢献に寄与した。

以上、多方面にわたる多大な業績によりSSと判定した。

教員名：岩崎 博道	所属：医学系部門医学領域	職：教授
<p>世界的なコロナ禍において、国内および地域内の公的な社会活動に尽力している。併せて診療活動としても、福井県感染対策予防対策委員として県内医療関係者のみならず県民に対しても積極的な情報提供や今後の方向性の提示など地域健康福祉に貢献したことにより、福井大学善行表彰と福井大学病院特別功労賞を受賞した。国公立大学感染対策協議会では、COVID-19 対応ワーキンググループの委員長を務め、全国的大学の統括を行っている。地元メディアを通じて月に1~2回程度県民に対し感染対策の基本を解説し、全国的にもTVや新聞を通じてCOVID-19への向き合い方を提言し続けている。</p> <p>教育活動では、文部科学省の感染症医療人材養成事業(1億297万円)を獲得しCOVID-19等パンデミックに対応可能な持続的感染症医療人の育成を進めている。研究活動では、総務省の戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE:代表1,660万円)、新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業(AMED:分担)のほか科学研究費(基盤C・挑戦的萌芽)など競争的獲得資金を継続的に獲得した。また、日本化学療法学会理事として感染症治療の発展に貢献し、同学会英文誌(JIC: Journal of Infection and Chemotherapy)のSenior editorを務めた。</p> <p>以上、多方面にわたる多大な業績によりSSと判定した。</p>		

教員名：友田 明美	所属：先進部門子どものこころの発達研究センター	職：教授
<p>ヒト大脳皮質の発達における愛着形成と幼若期ストレスの役割に関する研究成果は、改正児童虐待防止法に「家庭での子どもへの体罰・暴力の法的禁止」を盛り込む立法化実現や子どものこころの診療に貢献した。JST・社会技術研究開発(RISTEX)先端的知見に基づいた社会還元実績事業では、児童虐待に対する予防的アプローチとして「マルトリ予防®」「とも育て®」という概念を多職種・多機関の協働により打ち出し、それを本学から継続的に全国に発信していく体制と仕組みを構築した。JST日米科学技術協力事業「脳研究」分野グループ共同研究の日本側代表者(H29-R1年度)に採択され、事後評価では、臨床医学および脳画像・エピゲノム研究と対応づけ、児童青年期におけるヒト脳発達の新たな理解を提示した一連の成果により、「想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる」強い期待のもと「A+評価」を得た。H29年度に学長賞(研究)を、H30年度には国際ソロプチミスト協会-わかばゆめ基金賞、R2年度には文部科学大臣表彰-科学技術賞(研究部門)を受賞している。</p> <p>以上、多方面にわたる多大な業績によりSSと判定した。</p>		

教員名：徳永 雄次	所属：工学系部門	職：教授
<p>教育面では、学部から博士後期課程までの教育研究指導を行い、多くの博士を輩出した。研究面では、インパクトファクターで分野別上位 10%にある質の高い論文誌への掲載を始め、有機化学分野で多くの論文を公表した。共同研究も活発で、外部資金も多く獲得した。社会貢献・国際交流活動、管理運営活動においては、第3期中期目標期間4年目評価における研究評価の主要メンバーとして非常に貢献した。以上の理由から SS と判定した。</p>		

教員名：沖 昌也	所属：工学系部門	職：教授
<p>教育面では、学部から博士後期課程までの教育研究指導に加え PBL 教育にも貢献した。研究面では、分子生物学分野で活発な研究を行っており、企業との治療薬開発にまで発展し、マスメディアにも取り上げられ注目された。また、これらの研究は本学の医工連携活動に貢献している。社会貢献・国際交流活動、管理運営活動においては、全学のライフサイエンス副センター長として貢献した。以上の理由から SS と判定した。</p>		

教員名：熊倉 光孝	所属：工学系部門	職：教授
<p>教育面では、学部・研究科の教育研究指導に加え、共通教育を多く担当し貢献した。研究面では、量子ドット物理分野において活発な研究を行っており、多くの論文を出版し、継続的に研究資金を獲得した。社会貢献・国際交流活動、管理運営活動においては、第3期中期目標期間4年目評価における研究評価のメンバーとして非常に貢献した。以上の理由から SS と判定した。</p>		

教員名：米沢 晋	所属：基盤部門産学官連携本部	職：教授
<p>教育面では、化学系の専門教育、研究指導に加え、実践教育にも積極的に関わり貢献している。研究面では、文科省の大型プロジェクトを事業統括して遂行し、年平均1億円程度の高額な外部資金獲得を主導している。社会貢献活動においては、平成24年から福井県職業能力開発審議会の委員等を務めたことによる功績が評され、令和2年度人材開発行政関係功労者厚生労働大臣表彰を受賞するなど、福井県の人材開発行政等に対する同氏の功績は非常に大きい。特定活動においては、ふくいオープンイノベーション推進機構の地域産学官金を代表するメンバーと密に連携して地域活性化の施策を立案・実施し、地域産業の活性化に貢献している。以上の理由から SS と判定した。</p>		

## 5. S 評価該当教員

教員名	所属	職
口分田 政史	教育・人文社会系部門教員養成領域	講師
柳澤 昌一	教育・人文社会系部門教員養成領域	教授
西村 高宏	医学系部門医学領域	准教授
大嶋 勇成	医学系部門医学領域	教授
小坂 浩隆	医学系部門医学領域	教授
吉田 好雄	医学系部門医学領域	教授
坂下 雅文	医学系部門医学領域	講師
長谷川 智子	医学系部門看護学領域	教授
長谷川 美香	医学系部門看護学領域	教授
長谷川 達人	工学系部門工学領域	准教授
寺崎 寛章	工学系部門工学領域	講師
谷 正彦	先進部門遠赤外領域開発研究センター	教授
藤井 裕	先進部門遠赤外領域開発研究センター	准教授